



〈雑録〉最近十五年間ノ海運概観(其一)

倉田, 庫太

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 7(2):249*-265

(Issue Date)

1909-08

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051429>



最近十五年間ノ海運 概觀

(其二)

商學士 倉田 庫太

緒言

遠洋航路補助法ハ本年春第二十五議會ヲ通過シ法律トナ
リテ現ハレタリ。是レ實ニ數年來帝國議會ニ於ケル宿題ヲ

第七卷

(二四九)

雜錄

最近十五年間ノ海運概觀

第二號

(九七)

解決シタルモノニシテ、我海運政策確立ノ第二期ト稱スルヲ得ベシ。此際最近十五年間ニ於ケル我海運發達ノ跡ヲ尋ヌルモ、亦徒事ニ非ル可シ。依テ茲ニ主トシテ、既往ノ事實ヲ綜合シテ、實際の方面ヨリ我海運發達ノ狀況ヲ略述セムトス

第一章 日清事件前ノ海運界

第一節 個人船主

我海運界ニ於テ個人船主ナル語ハ所謂社外船ナル語ト共ニ特種ノ意義ヲ有セリ明治二十六年頃迄ハ我汽船噸數ノ一半ハ日本郵船會社之ヲ有シ他ノ一半ハ大阪商船會社ヲ始メソノ他ノ小船主又ハ小汽船會社ニ依リ占メラレタリ之ヲ以テ海運界ニ於テハ日本郵船會社ノ海運縱斷ノ勢力ヲ認メ同社以外ノ船主ノ所有ニ係ル汽船ハ之ヲ總ベテ社外船ト云ヒ半面ニ於テ社外船トハ多少劣等ナル船舶ナリトノ意ヲ寓セシメタリ而シテ會社組織外ノ社外船主ヲ呼ブニ個人船主ノ名稱ヲ以テセリソノ後大阪商船會社ノ發達東洋汽船會社ノ創設ハ日本郵船會社ノ縱斷力ヲ殺グニ至

リ是等ノ三社以外ノ船舶ヲ社外船ト稱シソノ船主ニ個人船主ノ名稱ヲ以テスルニ至レリ故ニ一般ニ個人船主ト云フモノノ企業ノ主體ハ會社組織ナルアリ個人經營ナルアリ要ハ唯數隻ノ汽船ヲ有スル小船主ニ對シ又補助ヲ受ケザル船主ノ意義ニ此語ヲ使用スルニ至リシモノニシテ今ヤソノ語字ト意義トハ必ズシモ適合スルモノニ非ズ然レモ吾輩ハ暫ク個人船主ノ名ヲ借リテ日本郵船大阪商船東洋汽船日清汽船等大資本船事會社ヲ除ク邦人船舶所有者ヲ表示セシメン我國ニ於テ個人船主ナルモノガ海運界ノ一勢力トシテ存立ヲ認メラル、ニ至リシハ實ニ明治二十三四年以來ノ事ニ屬シ即チ其頃ヨリ我沿海ニ日本郵船會社以外ノ大形 tramp steamer 日章旗ヲ翻スモノアルニ至レリ而シテ明治二十六年ニ於テ總噸數二千噸以上ノ個人船主大形船ハ僅カニ二隻ニ過ギズ其一ハ當時濱中八三郎氏所有ノ東洋丸(元彼阿會社汽船ザムベシ號總噸數二四九七噸

登簿噸數一五三四噸現今尾城汽船合資會社ノ所有ニシテ本邦沿岸ヲ今モ尙航海シツ、アリ）他ノ一隻ハ當時淺野總一郎氏所有ノ萬國丸之ナリ（原名アベンラーデ號昨四十一年風波ノ爲メ房州沖ニテ沈没ス本船ハ前記東洋丸ト同ジク一時ハ富多山商會ノ借入船トナリ轉ジテ尾城汽船合資會社ノ所有トナリシモノナリ）而シテ個人船主ノ平常從事セル普通航路ハ主トシテ内地沿岸朝鮮北清航路等ノ小區域ニ限ラレタリ詳細ハ別表ヲ視ヨ偶々前記東洋丸ハ明治二十六年十月肥前國唐津ヨリ石炭ヲ搭載シテ香港ニ航シ荷揚後復荷ヲ求メシニ幸ニモ一支那商ノ西貢ヨリ神戸ニ米ヲ輸送セントスルモノアリテ東洋丸傭船ノ商談將サニ調ハントスルニ際シ端ナクモ積荷保險ノ關係ヨリ破談トナルニ至リタリ乃チソノ理由ハ邦人海員ノ技術ニ對スル外國保險會社ハ不信用ニ基クモノニシテ東洋丸船員五名ヲ外國人ト更迭セシムルニ非レバ保險會社ハ積荷ニ

保險ヲ付スルヲ肯ゼズト主張シ船主ハ責メテ船長一名ナラバ之ヲ外國人ト交代セシムルモ可ナリト讓步セシモ保險會社ハ頑トシテ容レズ遂ニ東洋丸ハ十一月五日空船神戸ニ歸着セル事實アリ當時個人船主ガ斯カル計畫ヲナセシハ寧ロ破天荒ノ事ナリシモ此航路擴張ノ着手ニ於テ失敗セシハ誠ニ事情已ムヲ得ザリシナリ即チ個人船主ノ遠洋航海經營ハ本邦海員技術ノ信用足ラザルノ故ヲ以テ挫折ヲ招キタリ此年南方發展ノ外ニ鹿児島縣人小倉幸氏ハ汽船愛國丸（原名リデヤ大家七平氏所有總噸數一七七〇噸旅順閉塞ニ使用セラル）ヲ以テ布哇ニ航海ヲナサシメシモ太平洋郵船會社ノチャイナ號ノ爲メニ激烈ナル競爭ヲ受ケ是亦成功セザリキ然レドモ個人船主ガ漸ク内國沿岸航路ヨリ離レテ海外航路ニ着眼スルニ至リシハ注意スベキ現象ナリトス然ルニ翌明治二十七年ニ至リ海運界ハ個人船主ノ外國航海成功ノ吉報ニヨリテ一大刺激ヲ與ヘラレタ

表1. 明治二十六年末現在ノ登簿噸數千噸以上ノ汽船表

船名	登簿噸數	公馬力	當時ノ船主	摘 要
三池丸	2053	219	日本郵船會社	現存ス。新造セシモノ
廣島丸	2031	219	同上	現存ス。新造セシモノ
西京丸	1652	387	同上	現存ス。新造セシモノ
神戸丸	1645	387	同上	現存ス。新造セシモノ
山城丸	1567	261	同上	現存ス。元共同運輸會社船
近江丸	1533	261	同上	現存ス。元共同運輸會社船
和歌浦丸	1556	400	同上	現存ス。元支那ミユチアル。チンウオー號
東洋丸	1548	216	濱中八三郎氏	現存ス。元彼阿會社ザムベン號
朝顔丸	1520	193	日本郵船會社	旅順閉塞ニ使用。元三菱會社船
萬國丸	1448	227	淺野總一郎氏	41年房州沖ニテ難破ス
橫濱丸	1429	253	日本郵船會社	現存ス。元三菱汽船會社船
東京丸	1360	211	同上	33年芝罘近海難破。元三菱汽船會社船
遼江丸	1396	174	同上	旅順閉塞ニ使用。元共同運輸會社船
酒田丸	1369	162	同上	現存ス。
高砂丸	1286	236	同上	(失蹤但外國人ニ賣却後)元三菱汽船會社船
熊本丸	1236	167	同上	現存ス。元三菱汽船會社船
正義丸	1234	123	福永正七氏	日清事件御用船中火災焼失?
三河丸	1202	175	日本郵船會社	旅順閉塞ニ使用
新潟丸	1184	236	緒明菊三郎氏	解撤。元三菱汽船會社船
相模丸	1168	183	日本郵船會社	旅順閉塞ニ使用
薩摩丸	1157	197	同上	現存ス。元共同運輸會社船
長門丸	1149	197	同上	現存ス。元共同運輸會社船
天橋丸	1148	(帆船)	田中某氏	現存セズ
伏木丸	1118	195	日本郵船會社	現存ス
そらち丸 (空知丸)	1150	154	北海道炭礦 鐵道會社	現存ス
愛國丸	1067	154	大家七平氏	旅順閉塞ニ使用ス
仙臺丸	1064	164	日本郵船會社	35年? 朝鮮太耶島ニテ沈没
千代丸	1052	153	廣海二三郎氏	
攝州丸	1011	138	攝州灘 興業會社	失蹤ス
最上川丸	1005	154	田中太七郎氏	28年朝鮮海ニテ難破ス
品川丸	1001	120	日本郵船會社	37年1月? 遠州御前崎ニテ難破ス

合計三十一隻内日本郵船會社所有船二十一隻。其他船主所有船十隻但シ帆船一隻ヲ包含ス

千石)ヲ積ミ歸航セル事實ニシテ是レ日本人船
長ノ操縦セル船荷ニ外國保險會社ガ保險ヲ付ス
ルコトヲ承諾セシ嚆矢ナリ換言スレバ日本船舶

氏
氏
氏
氏
氏

同島原海崎同市

濱大菅藤秋馬中南藤廣川木

514	定期
1548	同
1067	同
591	同
280	同
797	同
347	臨時
797	同
680	同
743	同
927	同
928	同
665	同
384	同
1746(總)	同
不	詳

丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸
光洋國賀鳥陵照國本寮管越浦平代保水川島
日東愛加千高幸佐日社小中奈龍千三射浦

明治二十七八年戰役ハ同年七月二十五日朝鮮忠清道沿岸豊島沖ノ海戰ヲ序幕トシテ開カレタリ

スルコトニ改正シ此保護ハ引續キ創業後ノ十五ケ年間行ハレ即チ明治三十三年九月末日ヲ以テ

終了シタリ會社ノ船舶ハ創立當時兩社ノ所有船ヲ繼承セシモノ汽船五十八隻此總噸數六萬四千三百六十五噸帆船十一隻此總噸數四千六百三十二噸此評價ハ七百十七萬六千餘圓ナリキ然リ而シテ創立後老朽不經濟船ノ淘汰ニ勉メ帆船ノ除去ヲ行ヒ新船ヲ建造シ二十四年九月末ニ於テ略其目的ヲ達シタリ且又會社ハ明治二十五年ニ會社ノ基礎ヲ確實ナラシムル目的ヲ以テ資本ヲ八百八十萬圓ニ減ジ二十六年ニ新商法（現行ニ非ズ）ニ準ジテ純然タル商社會社トナシ役員官選ヲ廢シ他方ニ海外航路擴張ノ一着手トシテ此歲十一月孟買航路ヲ開始シタリ之レ我國遠洋定期航路開拓ノ先驅ニシテ海運史上特筆大書スベキ事ナリトス斯クノ如ク日本郵船會社ハ創業後第一期ノ整理漸ク緒ニ就クノ時ニ當リテ日清兩國ハ干戈ヲ交ユルニ際會シ第二期ノ革新的大向上

ヲナスニ到レリ回顧スレバ會社發展ノ徑路モ蓋シ偶然ニ非ズト謂ヒツ可シ

明治二十六年ノ初メニ於テハ會社ノ外國命令航路ハ神戸天津線神戸牛莊線神戸浦鹽線橫濱上海線等僅カニ數線ニ過ギズ此外ニ自營航路トシテハ神戸マニラ間ニ兵庫丸（總噸數一四〇〇餘噸現時小笠原線ニ使用）ヲ定期航海セシメシアルノミ臨時外航船トシテハ明治廿四年ニ三池丸（總噸數三三一二噸現存ス）ガ六百人ノ出稼人ヲ搭載シテ濠洲ニユークアレドニヤニ同二十五年酒田丸（總噸數一九五三噸現存ス）ガ同ジクニユークアレドニヤニ航シ同二十六年ニハ相摸丸（總噸數一八八五噸旅順閉塞船トシテ使用セラル）ガ五百人ノ出稼人ヲ乗セテ濠洲クキシスランドニ航海セルコトアリソノ他此數年間ニ布哇、香港、瓜哇、西貢等ニ臨時船ヲ派出セシコトアリト云フ此年本邦紡績業ノ發達著シク日本紡績聯合會ノ勸誘ニ基キ同會ヲ後援シテ同社ハ十一月已述

セルガ如ク廣島丸(三三〇〇噸許現存ス)ヲ神戸ヨリ孟買ニ差立テ日孟航路ノ基礎ヲ開キタリ而シテ其後ニ於ケル彼阿會社トノ激烈ナル競争ハ今モ猶ホ人口ニ膾炙スル所ナリ此年ニ於ケル會社ノ最大船ハ三池丸(三三〇〇噸餘)廣島丸(三二〇〇噸餘)ノ二隻ニシテ實ニ本邦船舶中ノ巨舶ナリシナリ、又美麗ナル客船トシテハ西京丸(二九一三噸)神戸丸(二八七七噸)ヲ始メ横濱丸(二三〇〇噸許)東京丸(二二〇〇噸許)三十三年芝罘沖ニテ難破ス山城丸(二五六〇噸)近江丸(二五〇一噸)薩摩丸(一九〇〇噸許)長門丸(一八八四噸)ノ八隻アリ何レモ電燈ヲ裝置セリ而シテ横濱丸東京丸ハ舊三菱會社ノ飛脚船山城丸以下ハ舊共同運輸會社ガ兵商二途ニ用ユル爲メ一八八五年前後ニ於テ特ニ建造シタル客船ナリ西京神戸ノ二船ハ郵船會社時代ニ入りテ最初ニ建造セシ客船ナリ東京丸級山城丸級ノ各姉妹船ハ六十萬兩餘リ費シ薩摩級ノ姉妹船ハ四十五萬

兩ヲ要セシモノナリト云フ之等八隻ノ客船ハ我海運史ヲ粉飾スルニ足ルモノナレドモ今ヤ已ニ老朽船ノ列ニ入り僅ニ薩摩丸ガ關釜連絡船トシテ神戸西京ノ二船ガ大連上海連絡船トシテ餘喘ヲ保ツノ外山城近江横濱長門ノ各船ハ神戸港波靜ナル所ニ繫船セラレツ、昔日ノ壯觀ヲ思ハシムルノミ船若シ靈アラバ今昔ノ感果シテ如何。

明治二十六年十月一日ノ會社現在船ハ航海汽船四十五隻ニシテ此總噸數六萬四千百五十七噸ナリ然ルニ翌二十七年九月三十日ニ於ケル調査ニヨレバ此一ケ年内ニ小形汽船一隻ヲ賣却シ大形汽船八隻ヲ購入シタルヲ以テ總船數五十二隻總噸數八萬六千八百八十二噸ニ達シタリ而シテ當時雄ヲ東洋ニ振ヒシ巨船土佐丸(原名イスラム號葡國リスボン沖ニテ沈没シタルヲ引揚ゲタルモノ)ノ加ハリシモ此頃ニテ猶新造汽船和泉丸モ竣成英國ヨリ回着シタリ今茲ニ兩船ノ大體ヲ揚ゲン

土佐丸(現在ス)二八九二年進水雙暗車四橋三聯成機關二組公
稱馬力五〇〇長サ四四五呎幅四九呎總噸數五四〇二噸登簿
噸數三五〇七噸(但シ後來測度更正ノ爲メ増加ス)

和泉丸(三十七年六月十五日亥海沖ニテ魯艦ニ擊沈セラル)一
八九四年進水製造地英國ニユーカッスルオンタイン、單暗
車二橋斜橋ヲ有ス三聯成機關一組長サ三三二呎幅四一呎總
噸數三二四二噸登簿噸數二〇九〇噸公稱馬力二四〇

然リ會社ハ此過去一ケ年ニ此二大新船ヲ船隊
ニ加ヘシト共ニ他方ニ記憶スベキ二大遠洋航海
ヲナセリ即チ二十七年晚秋十一月御用船朝顔丸
ハ横須賀軍港ヲ發シテ英領亞丁ニ航シ當時英艦
コサツク號ノ爲メニ抑留セラレシ新造軍艦龍田
ヲ受取り翌春兩艦船ハ舳艫相啣ミテ横須賀ニ歸
航シタリ他ハ仙臺丸ガブラジル國行移民ヲ乗セ
テ蘇士ヲ通過シ大西洋ヲ横斷シタルコト之ナリ
明治二十七年東學黨ノ亂ハ變ジテ日清兩國ノ葛
藤ニ移ラントシツ、アルノ際即チ同年六月郵船
會社ノ内國主要船路タル神戸小樽間東西廻ノ汽
船中十四隻二萬七千餘噸ハ先ヅ御用船トシテ引

上ダラレ形勢日ニ必迫セシカバ同社ハ其海運力
ノ補充トシテ船體ノ堅牢ヲ眼目トシ門司丸元山
丸仁川丸宗谷丸ノ四隻八千三百四十六噸ヲ購入
シ以テ焦眉ノ急ニ應ジタリ此頃新造船和泉丸亦
已ニ回着シタリ而シテ七月二十五日豐島ノ海戰
同二十九日成歡ノ陸戰ヲ始メニ日清兩國ノ戰端
ハ開ケ海運力ノ補充益々急ヲ告ゲタリ依テ政府
ハ運送船ニ供用スル爲メ同社ニ一定ノ要件ヲ指
示シテ外國船ヲ購入セシメ之ガ運轉取扱ヲ命ジ
タリ即チ陸軍ノ爲メニ買入レタルモノ小樽丸釜
山丸佐倉丸新發田丸姫路丸宇品丸金州丸旅順丸
ノ九隻二萬六千二百八十四噸アリ海軍ノ爲メニ
購求セシモノニハ福岡丸豐橋丸山口丸鹿兒島丸
ノ五隻一萬五千五百四十九噸アリ而シテ之等ノ
汽船ハ二十七年六月末ヨリ十一月末ノ間ニ四回
ニ買入タルモノナリ

然リ而シテ二十七年八月下旬ニハ會社御用船
ノ數ハ三十八隻八萬三千三百噸ニ達シソノ後千

噸以內ノ船舶モ悉皆御用船トナリタリ、故ニ殆
 ンド會社船隊ヲ舉ゲテ御用船トナリシモノニシ
 テ内國海運ハ僅カニ外國定期傭船ヲ以テ補填ヲ
 ナシタリカ、レバ此傭船數ハ二十七年十一月中
 旬ニ二十四隻六萬六千六百餘噸算シタリ斯クテ二
 十八年ニ入りテ會社ハ更ニ築城丸海城丸天津丸
 威海丸大連丸ノ五隻一萬四千五百七十九噸ヲ購
 入シ悉ク御用船トナシタリ同年三月ニ於ケル本
 邦船舶ノ御用船タルモノ總數百三十隻二十二萬
 七千餘噸ニシテ内五十七隻十二萬八千噸ハ郵船
 會社ノ所屬ニ係ル此内ニハ十四隻四萬八百三十
 四噸ノ取扱船ヲ包含ス此年八月ニ於ケル會社船
 隊ハ總計六十七隻十三萬七千三百餘噸ニシテ此
 内陸軍省所有船七隻二萬一千五百四十七噸海軍
 省所有船四隻一萬三千百噸アリ即チ當初ノ取扱
 船十四隻ノ内釜山丸ハ二月七日福岡丸ハ六月二
 十七日夫々所管官廳ヘ還付シ字品丸ハ四月三十
 日貔子窩ニ於テ坐礁沈沒セリ

要之、會社ハ日清事件ノ軍事輸送ノ大半ヲ遂
 行セシモノニシテ御用船ノ最多時ハ二十八年六
 月ニアリ同社所有船政府貸下船商船學校練習船
 等關係船舶ヲ合シ五十九隻總噸數十三萬四千二
 百四十三噸ニ達シ此内ニハ西京丸相模丸近江丸
 山城丸等ノ武裝商船モアリタリ又内地航運支持
 ノ爲メ定期傭船セシ外國船ハ最多時三十三隻七
 萬五千餘噸ニ達シタリ同社ガ日清事件軍事輸送
 ニ貢獻セシ所ハ實ニ偉大ナリト云フベシ

(四) 大阪商船會社

明治十三年頃ニ於テハ汽船海運ノ利益漸ク一
 般ニ認メラレ大阪ヲ中心トシテ内海伊勢九州等
 ノ沿海航路ニ從事スル者漸ク増加シテ之等小汽
 船ノ數ハ百有餘隻ニ及ビ小船各分立シテ互ニ競
 爭ヲ事トシ爲ニ衝突座礁等ノ危難頻々トシテ起
 リタリ政府モ之ニ鑑ミ小蒸汽船取締規則ヲ發布
 シ海事行政上監督ヲ嚴ニナスニ至リシカハ小船
 主モ爾來其弊ヲ悟リ競爭ニ疲憊シ明治十七年ニ

至リ一汽船會社ヲ創立ス之現今ノ大阪商船會社ナリ而シテソノ當初船隊ハ何レモ寄合モノナリシカバ之ガ修繕維持ニ多大ノ經費ヲ要シタリ故ニ政府ニ補助ヲ申請シ政府亦海運業獎勵助長ノ方針ヲ採リ明治二十年五月命令ヲ發シテ向フ八十年間即チ二十一年度ヨリ二十九年迄毎年五萬圓ノ補助金ヲ下付シ以テ大阪以西ノ内海諸港ニ命令航海ヲナサシメ郵便物ノ無賃遞送義務ヲ負擔セシメタリ同社ノ船隊ハ十七年創立ノ時ニハ九十五隻約一萬噸ニ過ギザリシガ明治二十六年末ニ於テハ老朽船ヲ淘汰シテ四十九隻一萬七千四百六十九噸トナリ最大船ハ明石丸（元三菱炭鐵社所有船）ニシテ同船ハ鐵製千三百五十四噸ヲ有セリ之ヲ外ニシテ六百噸以上ノモノニハ隅田川丸（鐵製七百四十二噸）信濃川丸（鋼製七百四十二噸）木曾川丸（鋼製六百八十五噸）筑後川丸（鋼製六百六十四噸）ヲ大船トシ以下ハ何レモ五百噸ニ止マリソノ中、鐵又ハ鋼製三

百噸以上ノモノハ前記ノ各船ヲ合シ僅カニ十六隻ニ過ギズ之ヲ改良船ト稱シタリソノ他改良船同格ト稱スルモノニ木造ノモノ數隻アリソノ他ハ在來船ト稱スル老朽船多カリキ又當時ノ同社船ハ殆ンド船名ニ川名ヲ附シ居リタリ之ヲ要スルニ日清事件迄ノ同社ハ我國海運界ニ於テ重要ナル地步ヲ占ムル能ハザリシモノナリ然リト雖二十六年年ニ及ンデハ木層川丸ヲ以テ釜山航路ヲ仁川ニ延長スルアリ而シテ日清事件ハ大ニ同社ノ今日アルヲ到シタル有力ナル刺戟ナリ輒チ同社ハ事件中又ハ其直後ニ於テ千噸以上ノ外國船ヲ購入シ又政府所有船ノ拂下ゲヲ受ケ同時ニ新造船ヲ加ヘテ面目ヲ一新スルニ至レリ余輩ヲ以テ視レバ明治二十八年迄ヲ一期トシテ同社ノ歴史ヲ縱斷スルハ蓋シ至當ナランカ明治二十八年一月同社ハ元英國船コンチネンタル號ヲ購入シテ之ヲ舞鶴丸（一〇五二噸）ト改名シ同年六月ニハブレスト號ヲ買ヒ之ヲ二見丸

(九二二噸)ト改メ同八月ニハタイツク號ヲ求メ之ヲ江ノ島丸ト命名シタリ、又此頃釜山丸(一九一九年一月)ヲ陸軍省ヨリ拂ヒ下ケ須磨丸(一二二二噸)ヲ三菱ヨリ買入レ沈沒船最上川丸ノ機關ヲ充用シタル新造汽船宮島丸(一六〇九噸)ハ二十九年八月長崎三菱造船所ニテ進水セリソノ他内地ニテ建造セシモノニハ二十七年進水ノ綠川丸龍田川丸ノ各四百〇八噸ヲ有スル二船アリ之ハ川崎造船所ニテ建造セシガ明治三十年ニハ大阪鐵工所ニテ新造ノ大井川丸(六五三噸)利根川丸(六五五噸)天龍川丸(六五八)ノ三船ノ進水アリ之レヨリ比年大形汽船ハ累加シ日本有數ノ汽船會社タルニ至レリ然レドモ日清事件當時ノ同社ハ單ニ微力ナリシト云フニ止メン

第三節

一般海運界ノ發展

夫レ海運界ノ未ダ幼稚ナル時代ニ當リテヤ之ガ發達ノ跡ヲ窺フハ唯大形船ノ出現ト噸數ノ増加トニアリ此點ニ於テ日清事件ハ我海運發展ニ

至大ノ影響ヲ與ヘタルモノト云フベシ

抑モ我海運界ハ明治二年太政官ノ布告ヲ以テ堅牢ナル西洋型船舶ノ所持ヲ人民一般ニ諭告セラレテ以來多少ノ發達ヲナセシト雖極メテ微々タルモノニシテ政府ガ明治二十年ニ五百石以上ノ大和船ノ建造ヲ禁止シタルヲ以テ視ルモ如何ニ守舊的ナリシカヲ知ルニ足ルベシ然リ政府ハ此二十年間ニ約二千萬圓ノ國帑ヲ費シテ汽船會社ヲ保護セシモ二十六年末ノ登簿汽船ハ總噸數合計十六萬七千餘噸帆船ハ三萬三千噸計二十萬噸ヲ算スルニ過ギズ日本郵船會社モ約八萬噸ヲ有スルノミナリキ

然ルニ二十年以後ニ於テ海外貿易擴張ノ聲高ク紡績業ノ勃興ハ支那ニ對スル貿易ヲ増進シ二十五年前後ノ内國豐作及銀ノ下落ハ恰モ輸出獎勵トナリ貿易ノ促進ト共ニ航海獎勵ノ必要朝野ノ有志ノ間ニ喧傳セラル、ニ至レリ而シテ海外航路ノ擴張ハ先ヅ綿花ノ輸入先ナル印度航路ニ

起ルニ至リタリ他方個人船主モ漸ク發達シ來リ大形船ヲ所有スルモノヲ出現セシ事實ニ已ニ第一節ニ述ベシガ如シ然ルニ日清ノ戰役ニ於テハ約二十萬ノ人員ヲ輸送シ御用船ノ船腹需要ハ個人船主ヲシテ外國大形船ヲ購入セシメ之等ノ個人船主ハ御用船料ノ收入ニヨリテソノ購入船價ノ大部分ヲ償却シ海運界ハ大ニ活動發達スルニ至レリ今茲ニ二十七年六月ヨリ二十八年九月ニ至ル登簿汽船ノ増加ヲ表示スレバ

五〇〇噸以下	六三隻	九、二四一噸五六
五〇〇噸以上	六隻	四、六二三噸〇七
一〇〇〇噸以下	五八隻	一四〇、九五九噸六二
一〇〇〇噸以上	一二七隻	一五四、八二四噸二五
計		
外ニ天津丸(二九四七噸)彦山丸(三二〇餘噸)等ノ假免		
狀受有船アリ		

即チ日清事件前ニ比シテ約倍加シタルヲト知スルニ足ルベシ亦日本郵船會社ノミニ就テ視ルモ二十六年十月ヨリ二十八年十月ニ至ル二ケ年間

ニ約七萬五千噸ノ激增ヲナシタリ猶左ニ數個ノ表ヲ掲ゲ以テ日清戰後ノ一般海運ヲ窺知スルニ足ルノ材料ヲ供セン

從明治二十七年一月至明治二十八年六月大形増加船舶

船名	總噸數	船主	摘	要
有明丸	三〇四	三井物產會社	現存	
鼓洋丸	三六	共榮汽船株式會社	現存セズ	
名護屋丸	二八五	日本郵船會社	難破	
五洋丸	五五	菅原氏外數名共有	元山ニテ日露戰役ノ際擊沈	
永鷗丸(新造)	四二五	岸本氏	不詳	
東英丸	二七三	中越汽船株式會社	難破	
宮川丸(新造)	四三	大阪商船會社	現存	
綠川丸(新造)	四九	大阪商船會社	現存	
南越丸	三五	右近氏	同	
小樽丸	三七四	陸軍省	旅順閉塞	
小倉丸	三六九	同	現存	
釜山丸	三六三	同	同	
和泉丸	三四	日本郵船會社	沖ノ島附近ニテ擊沈	

膽振丸	三五〇	北海道炭礦	沈沒	報國丸	二六六	喜多氏	旅順閉塞
姫路丸	三〇八	陸軍省	同	土佐丸	五七九	日本郵船會社	現存
福岡丸	三五六	同	現存	旅順丸	四七〇	同	同
神州丸	六六六	岸本氏	現存セズ	勢德丸	一四六	小栗氏	同
宇品丸	三三三	陸軍省	沈沒	正豐丸	一五九	石田氏	不詳
新發田丸	二九〇	同	外人へ賣却	竹ノ浦丸	二四四	大家氏	釧路灣ニテ傾斜沈沒
松山丸	二九六	海軍省	現存	奈瓦丸	二五九	廣海氏	澎湖島ニテ沈沒
豐橋丸	二六六	同	現ニ水雷母艦	日之丸	一四二	中越汽船會社	現存
宗谷丸	二七五	日本郵船會社	沈沒	福井丸	二六六	右近氏	旅順閉塞、當時故軍神廣瀬中佐坐乗セリ
江戸丸	一七三	廣海氏	旅順閉塞	仁川丸	二二一	日本郵船會社	旅順閉塞
土洋丸	二二三	土佐商船會社	現存	榮城丸	二四四	同	現存
大洋丸	二六七	岡崎氏	不詳	大連丸	二六九	同	解撤
山口丸	三〇三	陸軍省	現存	海城丸	三三二	同	同
旺洋丸	二八三	盛航汽船會社	同	威海丸	三〇六	同	難波
大和丸	三〇七	同	現存セズ	土觀音丸	三六六	緒明氏	沈沒
立山丸	三六三	馬場氏	現存	志賀浦丸	三三三	南島氏	現存
鹿兒島丸	四二九	海軍省	同	門司丸	三二一	日本郵船會社	同
河野浦丸	三七一	右近氏	沈沒	三海丸	一八〇	岡崎氏	不詳
土觀音丸(新造)	四八六	緒明氏	不詳	白山丸	二五九	馬場氏	銚子沖ニテ難破
金州丸	三六五	陸軍省	新浦沖擊沈	天津丸	二六六	岡崎氏	不詳
神祇丸	三六七	房田氏	現存セズ	末廣丸	二四三	中井氏	現存
玉姬丸	三六五	梅浦及田坂氏	同				

勝山丸	二五五	右近氏	現存
須磨丸(新造)	二五三	三菱合資會社	同
有磯浦丸	一八三	南島氏	今ノ第二元山丸
臺灣丸	三九二	大家氏	現存?
京都丸	六八七	廣海氏	同
舞子丸	一〇七三	大坂商船會社	日露戰役中機械水雷
阿蘇山丸	六九六	三井物產會社	現存
千代田丸	一九七	東本氏	同
豐州丸	二五三	岸本氏	不詳
二見丸	九三	大阪商船會社	現存
豐光丸	二〇三	八馬氏	不詳
勝立丸	三三七	三井物產會社	韓國軍艦揚武號
扶桑丸	九三	岩田氏	不詳
天津丸	二九三	陸軍省	旅順閉塞
彦山丸	三〇〇	三井物產會社	現存

注意 總噸數ハソノ當時ノモノナレバ其後測度更正ノ結果多
少ノ相違アリ、

船主ハソノ當時ノ船主ナレバ現時ニ於テハ大ナル相違
アリ、

摘要ハソノ後ヨリ現今ニ於ケル間ノ變化ノ大要ヲ示ス

(a) 大形汽船ノ一(二十八年三月三十一日現在ノ總噸數千噸以上ノ汽船)

一〇〇〇噸以上	四八隻	七〇、〇六四噸
二〇〇〇噸以下		
二〇〇〇噸以上	三九隻	九七、六七四噸
三〇〇〇噸以下		
三〇〇〇噸以上	一四隻	四九、八三三噸

計

一〇一隻

二二七、五七二噸餘

此內會社又ハ個人所有ノ船齡十五年未滿ノモノハ僅方二
三十七隻

(b) 大形汽船ノ二(二十八年末登簿噸數千噸以上モノ)

八三隻總噸數二〇四、四六八噸一三八登簿噸數一二九、四三
七噸六四

(c) 老齡船(二十八年六月末現在船ニ付調査)

登簿汽船總數五〇三隻三一四、六二三噸ノ內總噸數五〇
噸以上二〇年ヲ經過セシモノ
四四隻 六八、〇四六噸

(d) 快速船(二十八年十月末現在船ニ付十二節以上ノモノ)

汽船二三隻 何レモ日本郵船會社所屬船

最快速力十五節以上ハ土佐丸一隻ノミ但シ舊時十五節ヲ出
セシモノニハ新發田丸アリ之ヲ除キ十四節ノ金州丸ハ當時
ニ於テ最速ト稱セラレタリ

第四節 造船業ノ一般

現時本邦ニハ世界ノ巨船ミンチソタ號(二〇七八〇噸)ヲ收容スルニ足ル乾渠アリ太平洋最初ノ「タービン」裝置ノ巨大客船天洋地洋(各一三五〇〇噸)ヲ建造スルノ大造船工場ヲ有ス中ニモ三菱ガソノ全力ヲ傾注セル長崎ノ造船所ハ實ニ世界ノ誇ナリ然レドモ日清事件前ニ於テハ之ヲ始メ川崎造船所及大阪鐵工所等現時ノ大造船所ハ何レモ搖籃時代ニシテ我國民間ノ造船力ハ極メテ微々タルモノナリキ故ニ大形汽船ハ海軍ノ造船工廠ニ於テ修理シ或ハソノ乾渠ニ入りテ検査ヲ受ケタルノ狀況ナリシ

當時ニ於テ重要ナリシモノハ僅カニ長崎ニ於ケル三菱造船所アルノミ同造船所ハ明治十七年官有造船所ヲ拜借シ二十年改メテ之ガ拂下ヲ受ケ同年鐵製汽船夕顔丸(二一〇六噸)ヲ建造シ二十二年ヨリ二十四年ノ間ニ大阪商船會社ノ筑後川丸木曾川丸信濃川丸(各七〇〇噸許)ノ三隻ノ鋼

製汽船ヲ建造シ茲ニ世界的造船業者ノ班ニ加ハルノ最初ノ經驗ヲ積ミタリ而シテ日清事件ノ當時ニ於テハ同造船所ハ本邦ニ於テ最初ニ建造セラレタル船洋汽船須磨丸(現時大阪商船會社所有船臺灣航路ニ使用セラル)ノ建造中ナリキ之レ艦テ三十七年六月十五日玄界灘ニ於テ千秋ノ恨事ヲ止メシ常陸丸ヲ建造スルノ前提ニシテ我國造船業ニ百尺竿頭一步ヲ進メシモノナリ(但シ是レヨリ先工部省長崎工作分局ニ於テ千五百噸ノ木造三檣汽船小菅丸ヲ建造シタルコトアリ此船ハ二十七年十二月二十七日朝鮮沿岸ニテ御用船從事中沈沒ス)光榮アル造船所ノ初頁ヲ飾ル須磨丸ハ二十八年一月十二日ヲ以テ進水シタル總噸數千七百五十噸速力十節半ノ汽船ナリ日清事件前ノ造船業ハ前述ノ如ク民間船舶ヲモ海軍ニテ修繕ヲナシタリシカハ事件ノ發生スルヤ海軍省ハ二十七年八月海告第一號ヲ以テ次ノ如ク布達セリ

各鎮守府造船部ニ於テ政府ノ使用ニ屬セザル内國船舶及外國船艦ノ製造及修理ヲ停止ス但シ海軍大臣ノ許可ヲ受クルモノハ此限ニ非ズ
之レヲ以テモ我國造船業ノ一般ヲ窺フニ足ルベシ。
(未完)
